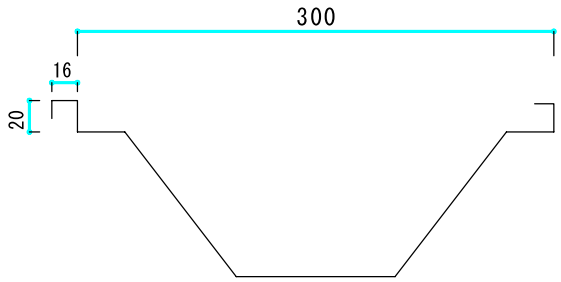
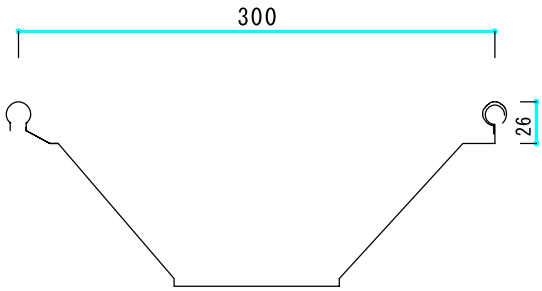
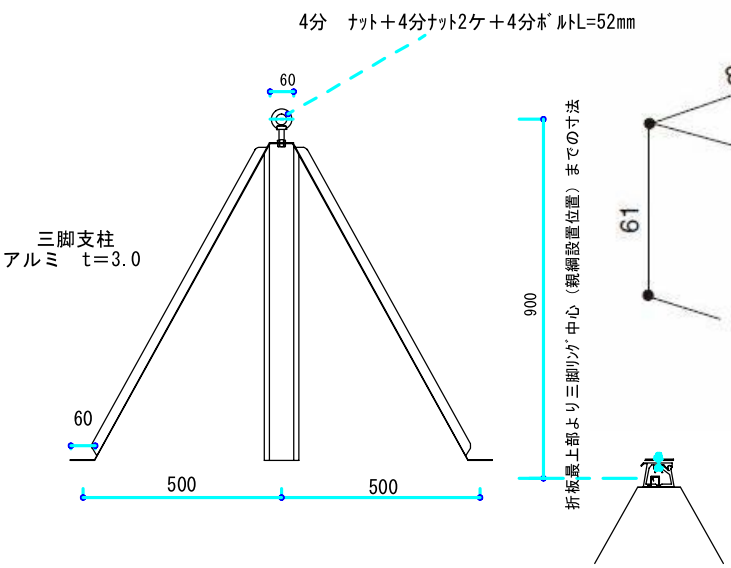
NO、９　アルミＨ90Ｗ300　角丸兼用

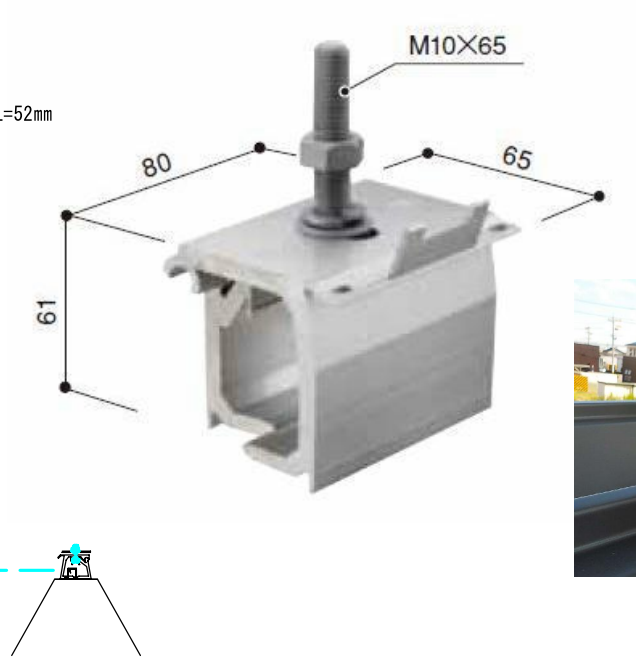
角ﾊｾﾞｗ300Ｈ90　折板



丸ﾊｾﾞ　ｗ300Ｈ90　折板

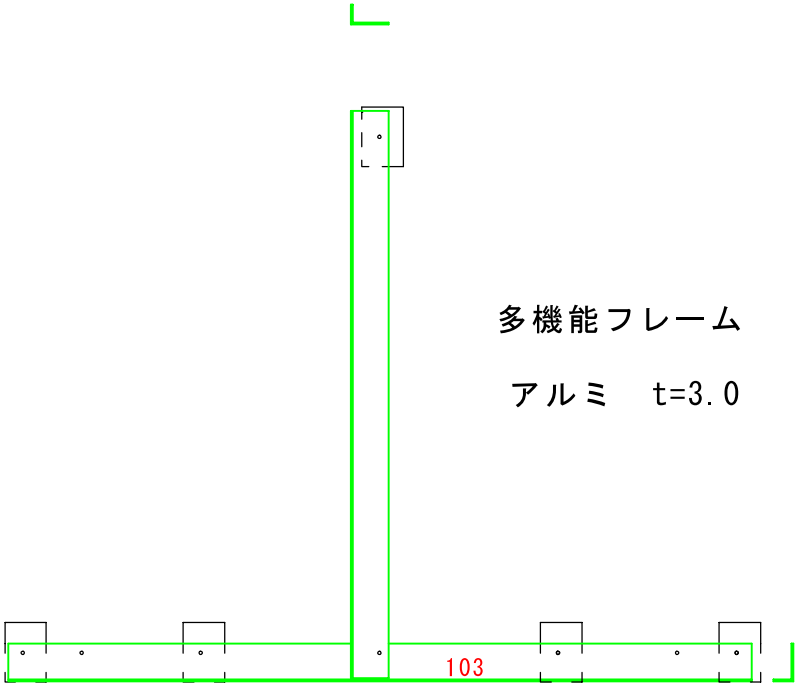






折板つかみ金物
角丸ﾊｾﾞ兼用
元旦ﾋﾞｭｰﾃｨｰ工業(株)
アルミ材

保護用ｺﾞﾑｼｰﾄなし

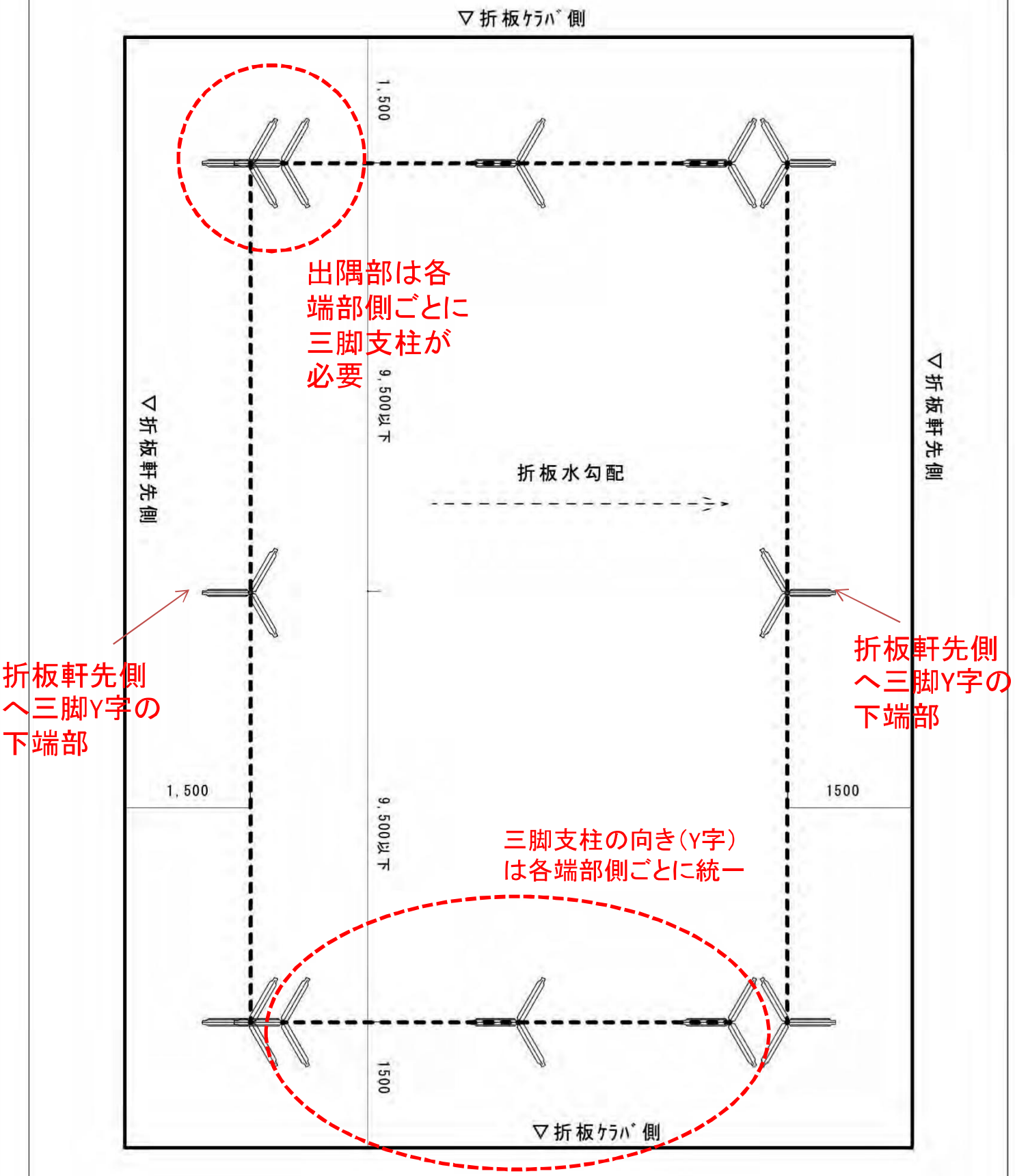


多機能フレーム

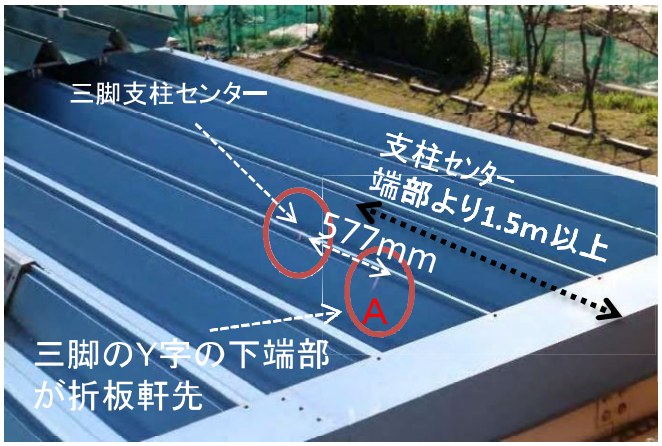
アルミ　t=3.0

三脚支柱(墜落防止用)取付　平面図

別紙⑤



三脚支柱　取付手順



①　取付位置墨出し

三脚支柱のｾﾝﾀｰ位置（頂点）を折板のﾊｾﾞ部にﾏｰｷﾝｸﾞし、そこから577㎜離れたAの位置をﾏｰｷﾝｸﾞする　（三脚のY字の下端部が折板軒先側にくるようﾏｰｷﾝｸﾞ）　センターの位置は端部より1.5m以上離してください

三脚支柱取付向きは別紙⑦参照

②　T字補強金物取付

Aの位置がT字補強金物の頂点にくるようT字補強の掴み金物をｲﾝﾊﾟｸﾄにてしっか固定する　（締付けﾄﾙｸはﾄﾙｸﾚﾝﾁにて55N･mとする）　　別紙⑥参照

画像の折板と補強金物はW500の折板であるが、W300も同様に取付ける。

③　三脚支柱組立

支柱材の曲げ部が外側（図のように）にくるよう三脚を組立て上部を　Iﾎﾞﾙﾄにて固定

④　三脚支柱取付

T字補強金物のﾎﾞﾙﾄへ三脚支柱の脚の穴を入れﾅｯﾄを取付ｲﾝﾊﾟｸﾄにて三脚の脚3ヵ所とIﾎﾞﾙﾄのﾅｯﾄをしっかり固定し親綱設置
（締付けﾄﾙｸはﾄﾙｸﾚﾝﾁにて55N･mとする）

別紙②　安全使用基準に遵守
折板出隅部は別紙⑤参照

掴み金物は55N・mにてナットを締めて下さい

トルクレンチにて締付けトルクを管理して下さい（L=25cmのシノで約22kgでしめる力）

三脚支柱使用基準　　別紙　②

取付及び使用する前には必ず使用基準をお読み下さい

1　衝撃するおそれのある床面等より4m以上の高さが折板の上部で確保されていること

ﾌﾙﾊｰﾈｽﾀｲﾌﾟの安全帯使用時においては、4.5m以上の高さを確保すること（平成28年4月追記）

2　折板の形状は角ﾊｾﾞ500（300）、丸ﾊｾﾞ500（300）、ＢＬ500、ﾙｰﾌﾃﾞｯｷとし、それぞれ指定した掴み金物を使用すること（掴み金物の取付困難な折板及びへこみ等で変形した折板には使用禁止）

3　掴み金物と折板の隙間は専用の保護ｺﾞﾑｼｰﾄt=1.2㎜にて養生すること（１型のみ）

4　三脚支柱の間隔（1スパン）は9.5m以内とし、１スパン１人までで使用すること

5　三脚支柱の中心が折板端部（軒先、ｹﾗﾊﾞ、開口部）より離れ1.5m以上離して設置すること

6　必ず支柱用親綱はﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ製φ16（仮設工業会認定品）を使用し（ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ等は使用禁止）緊張器にて十分緊張させること

7　折板施工時、三脚支柱を設置する場合は、掴み金物を取付ける箇所より流れ方向上下4m以上連続ﾊｾﾞ締め完了後、掴み金物を取付けること

8　墜落等で衝撃を受けた支柱及び変形をした掴み金物は使用しないこと

9　設置及び撤去作業時は保護手袋を着用すること

10　丸ﾊｾﾞ,BL500の掴み金物の取付方向は別紙③、④にて確認が必要（下記QRｺｰﾄﾞ内の別紙参照）

11　安全帯（ﾗﾝﾔｰﾄﾞ長さL=1.7m以下）、支柱用親綱は安全性の確認されたものを使用すること

12　折板屋根の勾配は10%以下とします

13　三脚支柱の上部リングに直接安全帯を使用しないこと

14　折板出隅部の三脚支柱の設置は下記QRｺｰﾄﾞ内別紙⑤の基準による

（出隅部は三脚支柱が連続して２脚必要）

15　三脚支柱、掴み金物等部材は放り投げたり衝撃を与えないこと

16　掴み金物を折板に固定するﾄﾙｸは5.5kN・cmとすること

17　親綱、安全帯等が落下衝撃により折板の端部等にて損傷されるおそれがある場合は事前に養生等をすること、又ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑのｽﾊﾟﾝや折板の板厚等により落下衝撃による折板の損傷具合は異る

18　下記QRｺｰﾄﾞ内の三脚支柱取扱説明の各資料を確認すること

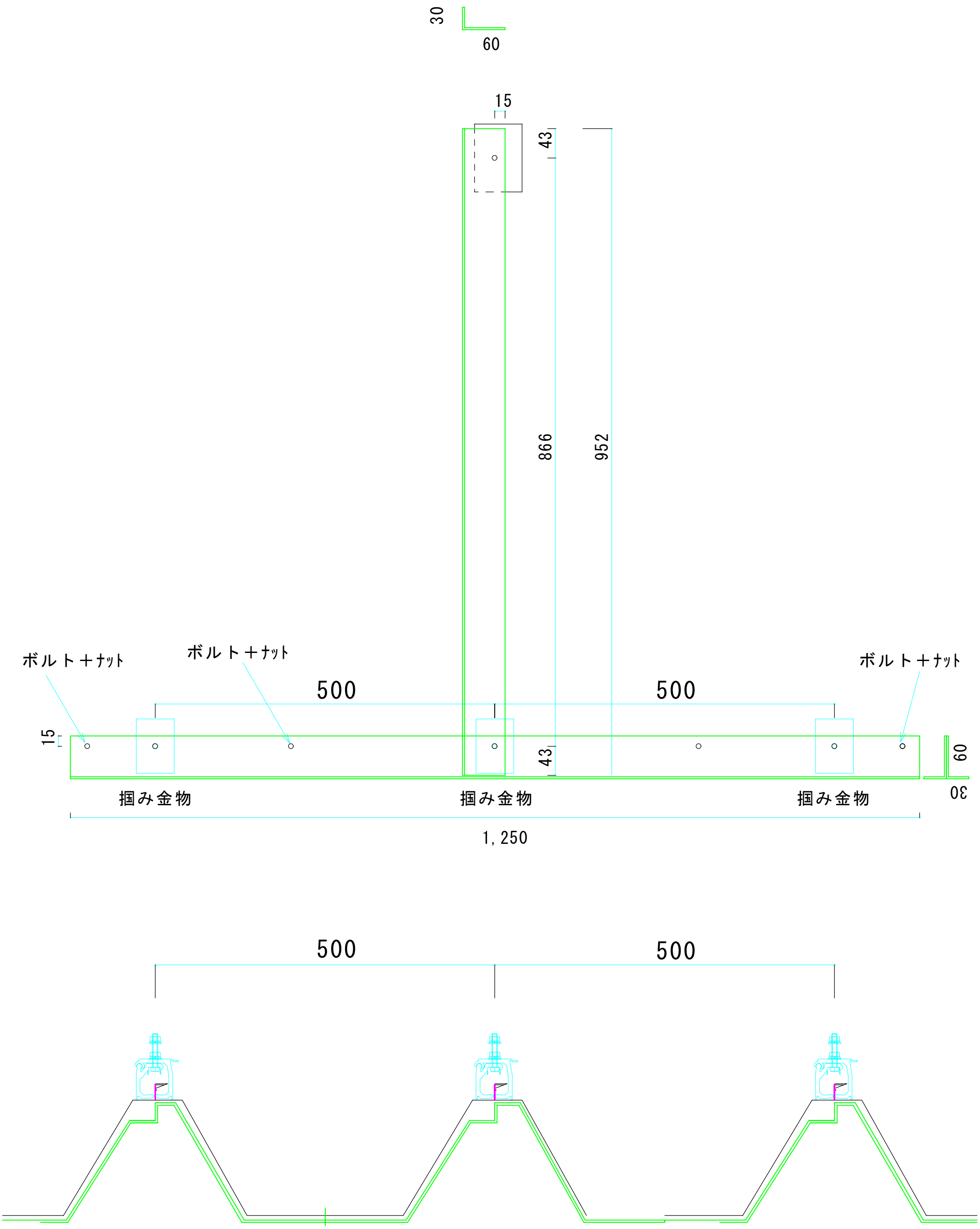
19　三脚支柱使用時はﾌﾙﾊｰﾈｽﾀｲﾌﾟの安全帯の使用を推奨とする。

2016年4月　　製造元　高柳板金(株)

三脚支柱　取付向き

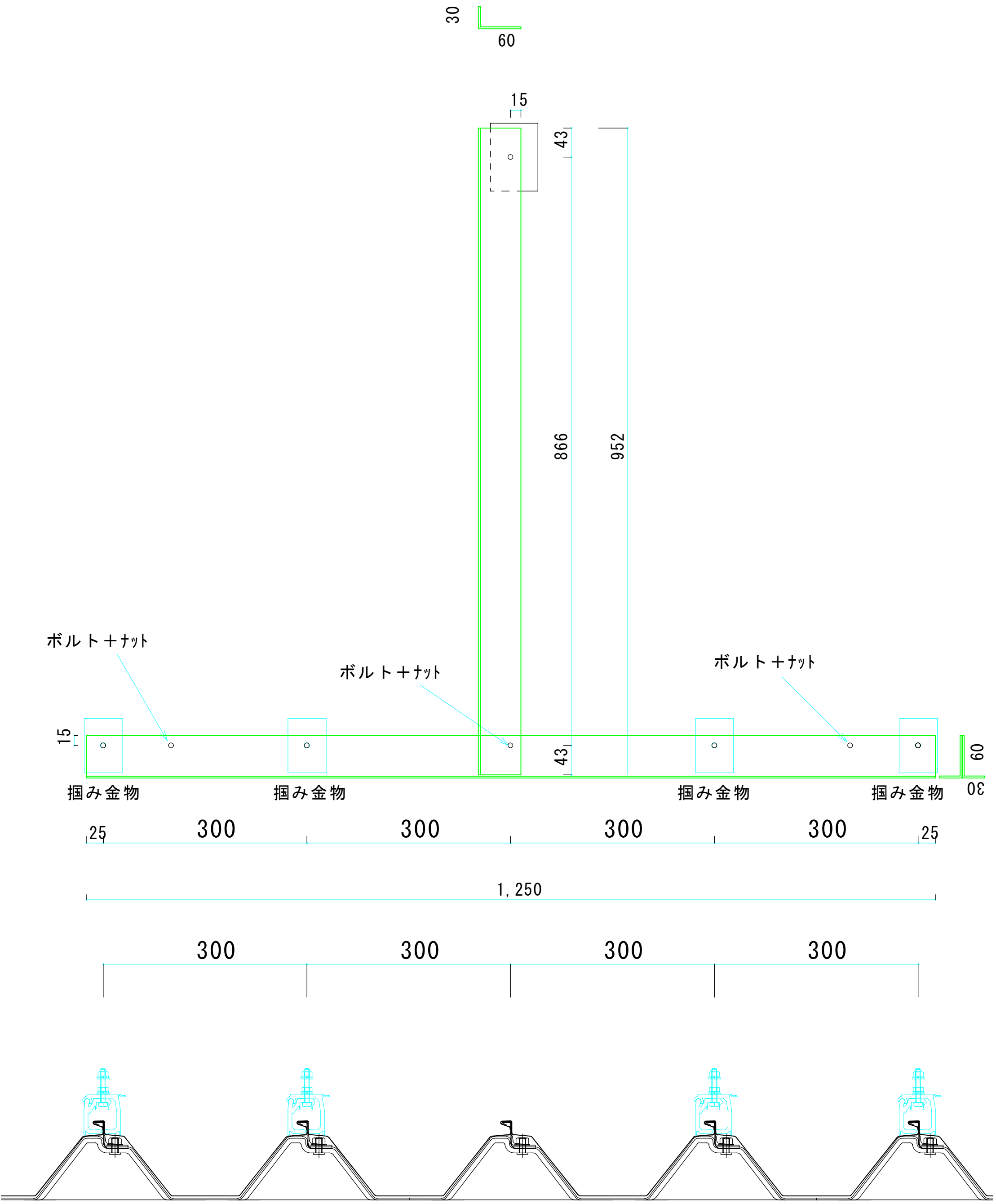
別紙⑦

1型、2型、3型共通事項



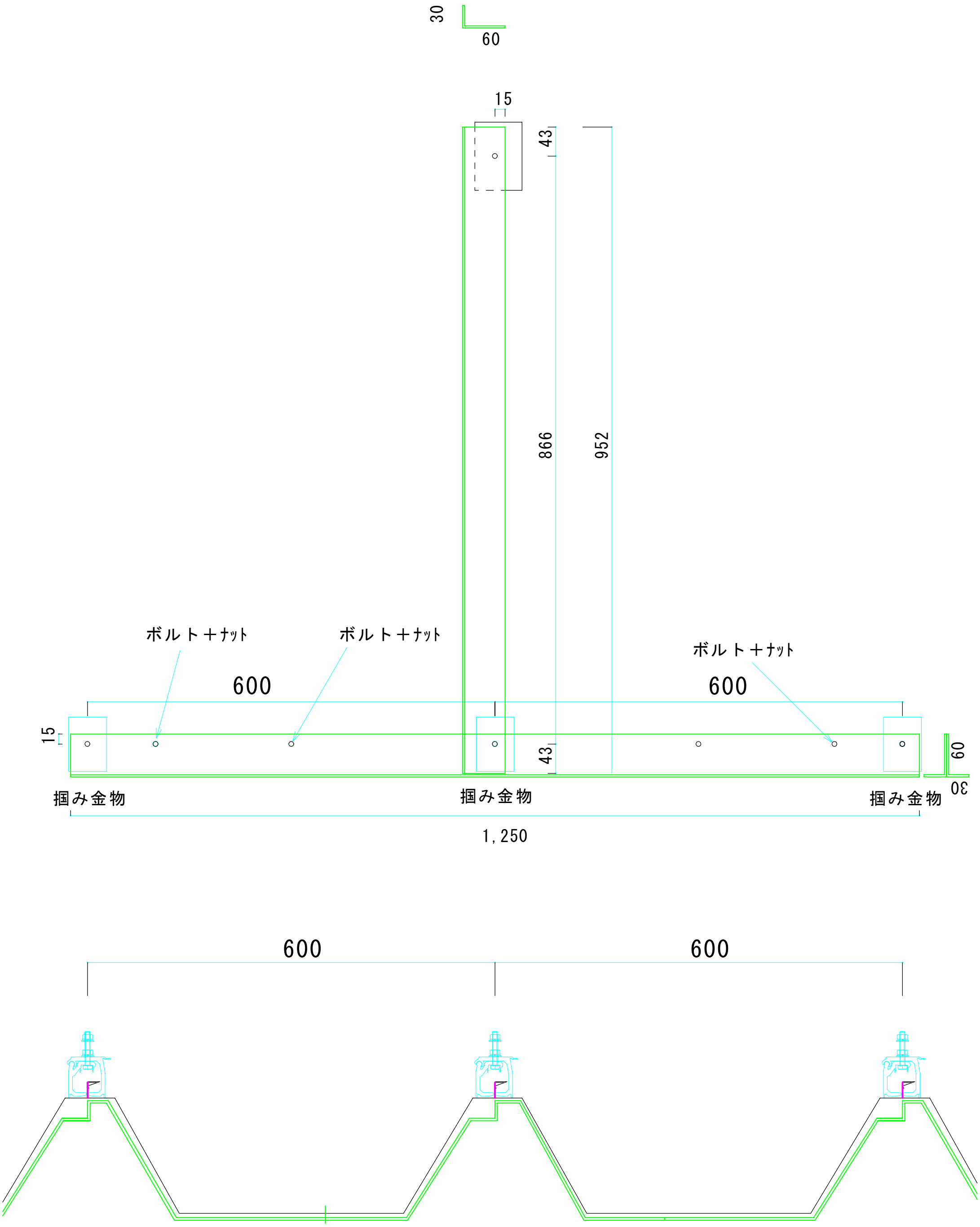
NO,9　多機能フレーム　@500　ハゼ折板の場合

掴み金物　４ケ（3+1）



NO,9　多機能ﾌﾚｰﾑ　@300　ハゼ折板の場合

掴み金物　５ケ（4+1）



NO,9　多機能ﾌﾚｰﾑ　@600　ハゼ折板の場合

掴み金物　４ケ（3+1）

Iボルトを緩める
時は、２１mmの
ソケットをご使用
下さい。

三脚支柱を画像のよう
に無理やり変形させな
いで下さい。
欠品対象となります。